

| | |
|---------|---------------------------------|
| 本時のひと工夫 | ねらいとする価値に迫る、役割演技と問題解決的な学習の展開の工夫 |
|---------|---------------------------------|

1 主題名 公正・公平 4－(2)

2 ねらい

いじめをなくすための解決策を考えることを通して、不正な行為は許さないという公正で公平な態度を育てる。

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする指導内容について

ねらいとする内容項目4－(2)は、「だれに対しても差別することや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める。」ことである。様々な人との関わりの中で、だれに対しても差別することや、偏見を持つことなく接することを学ぶのは、大変重要である。特に、いじめは社会問題となっており、世論を賑わせている。児童も「いじめは絶対にだめだ」ということは理解している。しかしながら、だめだと頭で分かってはいても、いざ身の回りで問題が起きたとき、公正・公平な行動をとることは難しい。普段から不正な行為は絶対に行わない、許さないという断固たる態度を育てることが大切である。

そこで、いじめという身近な差別や偏見に向き合い、だれに対しても公正・公平な態度で行動しようとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態

平成28年6月17日実施(男子14人 女子13人 計27人)

1 いじめは理由があればやっても良い。

・はい…0人 ・いいえ…26人 ・未回答…1人

2 いじめとは具体的にどのようなものですか。(自由記述)

・暴力…9人 ・悪口…9人 ・人にされて嫌なこと…8人
 ・仲間はずれ…3人 ・物を取られる…3人 ・その他…3人
 ・未回答…3人

事前調査の結果から、ほとんどの児童が、いじめはどんな理由があっても行ってはいけないと考えている。普段の様子を見ていると、自分がしている行為が、友達にとってはいじめに思われるかもしれないという視点は育っていない。そのせいか、遊びの延長から暴力をふるったり、口調が厳しかったり、人にされて嫌なことをしてしまったりしている姿が見られる。

指導に当たっては、問題解決的な学習を展開し、当事者の立場に立って、「考え、議論する」中で、考えを深められるようにする。また役割演技を通して、いじめられる当事者の気持ちにも気付けるようにする。

(3) 資料について(資料名 「いじめについて考える」 出典 私たちの道徳)

本資料は、『私たちの道徳 小学校5・6年』P134掲載「このようなとき、あなたならどうしますか。」である。

掃除の時間にAさんの仕事であるゴミ捨てを、BさんがCさんに押しつける。しかし、Cさんは嫌がることをしないという内容であり、いじめの発生が感じられる資料である。また、様々な立場でいじめについて考えことのできる資料である。

問題を解決するためにどのような行動をすれば良いのか、いじめにつながる場面を設定し、被害者、加害者の立場に特化して、その立場に立って様々な解決策を考え、ねらいとする価値に迫りたい。

4 展開

| 過程 | 主な活動と発問 | 予想される児童の反応 | 支援の手立てと評価 |
|-----------|---|---|--|
| 気付く ↓ | 1 いじめとは何か考える。 ○いじめとはどのようなものでしょうか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・人の悪口を言う。 ・人の物を盗む。隠す。 ・意地悪をする。 ・仲間はずれにする。 ・絶対にしてはいけないもの。 | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果を掲示する。 ・文部科学省のいじめの定義を知らせ、身の回りにもそのようなことがないか、自分のこととして考えられるようにするとともに、ねらいとする価値への方向付けを行う。 |
| 深める ↓ | 2 資料を読んで、解決策を考える。 ○資料を読んで何が問題だと思いましたが。 ○どうすれば良かったと思いますか。 ◎よりよい解決策は何でしょう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・Bさんがいじめをしていること。 ・AさんがBさんに注意できなかったこと。 ・Cさんがはっきり嫌だと言わないこと。 ・周りの人がBさんに注意できなかったこと。 ・AさんがBさんに注意をする。(解決策1) ・Cさんが自己主張する。(解決策2) ・怖いから言えない。 ・代わりに、友達や先生に相談する。(解決策3) ・AさんはCさんのことを考えてはっきり言うべきだ。 ・Cさんは勇気が必要だけど、嫌だと言うべきだ。 ・自分から言えなくても、相談する方法も良いと思う。 ・どの方法も、いじめはだめだという方法だと思う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・解決策のみを答える場合は、考えた理由も含めて考えを述べさせ、解決策がもたらす結果についても予想することで、多面的、多角的に解決策を考えられるようにする。 ・Bさんに注意をしたり、はっきり言ったりする方法しか意見が出なかった場合は、「みなさんはBさんにそこまで言えますか。」という補助発問を用意し、言えなかったからこそいじめが継続することに気付かせ、友達に相談することも解決策の一つになることに気付かせるようにする。 ・最初に3つの解決策からひとつを選ばせ、2人1組になり役割演技をしながら、シナリオに沿って演技することで、よりよい解決策かどうか再検討できるようにする。 ・同じ解決策の人、違う解決策の人同士での役割演技を行わせ、他の立場に立った気持ちや解決策の良さにも気付けるようにするとともに、具体的な行動についてのスキル学習としていけるようにする。 |
| 見つめる ↓ | 3 今までの自分をふり返る。 ・今まで、だめなことはだめと人にははっきり言うことができましたか。 4 教師の説話を聞く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・何も注意できなかった。 ・一緒になって楽しんでしまった。 ・今までは言えなかったけれど、これからはだめだとはっきり言いたい。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>不正な行為は許さないという公正で公平な態度で人と接しようとする気持ちが高まったか。 (発表・ワークシート)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が「私たちの道徳」の資料「いじめている君へ」を朗読し、今日の内容を今後の生活に生かしていくことを伝える。 |

5 他の教育活動などとの関連

総合的な学習の時間の福祉活動を通して、現代社会がだれに対しても差別することや偏見をもつことのない社会を目指していることについて理解を深め、公正、公平に接する心情を育てる。

6 話し合いの様子

○いじめとはどのようなものでしょう。

- ・ 暴言や悪口を言う。
- ・ 物を隠す。盗む。
- ・ 仲間はずれにする。
- ・ 暴力をふるう。

○資料を読んで何が問題だと思いましたか。

- ・ Bさんがひどいこと。
- ・ Cさんが優しすぎること。
- ・ Aさんの考えが甘いこと。
- ・ 全員がそれぞれ悪いこと。

○問題を解決するためには、どうすればよいと思いますか。

- ・ Bさんがごみを押し付けることをやめる。
- ・ Cさんが「いやだ。」と言う。
- ・ BさんにAさんが注意をする。
- ・ 友達や先生、親に相談する。

◎よりよい解決策は何でしょうか。

- ・ どの方法でもよいと思う。
- ・ Bさんに直接言うのは怖いから、相談する案が良かった。
- ・ ひとりで抱えていないで、周りに言った方がいい。
- ・ AさんとCさんが協力してBさんに言うこともありだと思う。(新しい解決策)

○今までをふり返って(ワークシート)

- ・ 今までは友達に合わせてしまった。
- ・ 友達に逆らうことができず、注意ができなかった自分が情けなかったと気付いた。
- ・ 今までは不正な行為を見ても「別にいいや」と思っていたけれど、これからは助けてあげたい。
- ・ やられている友達がいたら、一緒に解決策を考えてあげたい。
- ・ これからは、だめなことはだめと注意をする。

<ロールプレイの様子>



7 成果と課題

この授業を振り返り、児童が「今まで友達に合わせて、不正な行為だと分かっているけどもやってしまったことがあった」と気付くことができた。ロールプレイをすることで、自分だったらどうするか、どうしたいかということを具体的に考えることができた。しかし、ロールプレイを楽しむだけで満足している児童もいた。普段の生活の中でどのように生かすことができるのか、さらに話し合いを深めていく必要があると感じた。また授業の時間だけでなく、日々の教育活動全体を通じて、いじめを許さない風土づくり、不正を許さない公正さを育てる指導を行うことの重要性を改めて実感した。

II 道徳の時間や道徳教育を実践する上での課題について

- ・ 自分のこととして真剣に考えることのできる題材や展開の工夫
- ・ 議論を深めるための工夫

① AさんがBさんに注意をする

- A 「当番でないCさんに押しつけたら、いじめになるよ。」
B 「こんなのはいじめじゃないよ。だってCさんは気にしてないから。」
A 「笑っているけれど、本当はCさんも困っているんだ。」
B 「何も言ってこないから大丈夫だよ。」
A 「大丈夫じゃないよ。Cさんは優しいから言わないだけで、これは完全な、いじめだよ。」
B 「だ、だって・・・」

② CさんがBさんに自己主張する

- B 「早くごみ捨て行ってこいよ。」
C 「僕は当番でないから、行く必要はないよ。」
B 「いつもは何も言わずに行くじゃないか。」
C 「いつも君が僕に押しつけるからだよ。でも本当は嫌なんだ！」
B 「それなら、そう言えばいいじゃないか。」
C 「君が怒ると怖いから、なかなか言い出せなかったんだよ。」

③ 友達や先生にBさんのことを相談する

- A・C 「Dさん、あのね・・・。」
D 「どうしたの？何かあった？」
A 「最近Cさんが、Bさんにごみ捨てを押しつけられているみたいなんだ。」
C 「実は、最近Bさんに、ごみを捨ててこいって押しつけられるんだ。僕は当番じゃないのに。」
D 「え、Bさんひどいね。やめろよって言うてみた？」
A・C 「いや、なかなか言えなくて。Bさんてちょっと怖いじゃん。」
D 「確かに。言いつらいよね。どうすればいいか、一緒に考えようか。」

そうじの時間です。ごみ箱にたまったごみを、最後に収集場所に捨てに行くことになりました。当番だったAさんがごみ箱を持って行くことになると、Bさんが

「Aは行かなくていいよ。」

と言いました。

そして、Cさんに向かって、

「C、お前が行けよ。」

と言って、Cさんにごみ箱をおしつけました。

今までをふり返って